

### 第3章 行動人連携学習プログラムの開発

#### 1 モデル学習プログラムの作成

県内の公民館等で行われている、学びを行動に生かすことを意識した取組や、当センター主催地域マイスター養成講座を基に、図1のような「基本となる学習モデル」を作成した。今年度の公民館に対するアンケートでは、学習者が人材として活動している事例の多くは、学びを生かす場や、グループ・団体等に参加するなど人材としての受け皿が保証されているケースが多かった。このことから、人材として活動するまでを学習のプログラムに位置づけることにした。

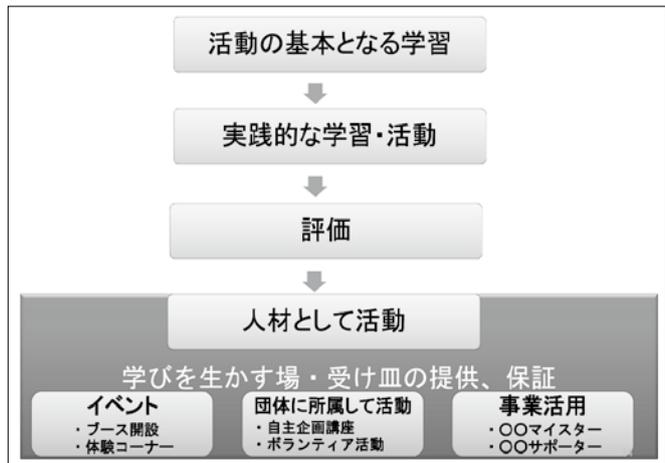


図1 基本となる学習モデル

この基本となる学習モデルに沿い、さらに具体的な展開例を構想し、以下のようなモデル学習プログラムを作成した。このモデル学習プログラムは、市町村訪問の際に資料として持参し、事業説明に活用した。

#### (1) 人材育成プログラム

ねらい：市町村や公民館における学習を生かして行動する人材を育成する

対象：市町村及び公民館職員、地域住民

具体例：

#### 地域史跡ガイド養成講座（全8回）

##### <活動の基本となる学習>

##### ①地域史概論（講義1回）

- ・地域史に詳しい行動人を講師に招き地域史や地域の史跡について学ぶ

##### ②史跡巡りⅠ（講義・フィールドワーク3回）

- ・既存のガイドボランティアなどの行動人と共に史跡を巡り、基礎知識を身に付ける

##### ③上手な説明の仕方（講義・演習1回）

- ・既存のガイドボランティアなどの行動人から話し方・説明の仕方のノウハウを学ぶ

##### <実践的な学習・活動>

##### ④史跡巡りⅡ（実習・フィールドワーク2回）

- ・受講者が実際にガイドを経験する

##### <評価>

##### ⑤学習の総括・評価（演習1回）

- ・学習を振り返り、学んだ知識や技法、心構え等を総括する
- ・ガイド認定・登録

##### <人材として活動>

- ・登録ガイドボランティアとして活動
- ・既存グループへ加入して活動
- ・新グループを立ち上げ活動

## 傾聴ボランティア養成講座（全6回）

### <活動の基本となる学習>

- ①傾聴ってなんだろう（講義1回）
  - ・ 専門家や研究者を講師に招き、傾聴の意味と意義、信頼関係構築の条件等を学ぶ
- ②ロールプレイング 聴き方練習（演習3回）
  - ・ 話し手と聴き手に別れて各々の役割を体験する
  - ・ 既存の傾聴ボランティアとの演習を通し、うなずき・相槌・繰り返し・要約・質問・沈黙への対応などの技法や、話し手の世界や感情に沿った聴き方を学ぶ

### <実践的な学習・活動>

- ③特別養護老人ホーム等での実習（実習1回）

### <評価>

- ④学習の総括・評価（演習1回）
  - ・ 学習を振り返り、学んだ技法や心構えを総括する
  - ・ ガイド認定・登録

### <人材として活動>

- ・ 登録傾聴ボランティアとして活動
- ・ 既存グループへ加入して活動
- ・ 新グループを立ち上げ活動

## (2) 地域活性化プログラム

ねらい：市町村や公民館における学習で、地域課題の解決や地域活性化、町おこしなどの企画や事業を提案・実行し、学習成果の地域活動への波及を目指す

対象：市町村及び公民館職員、地域住民

具体例：

### いきいき健康講座プロジェクト（全8回）

#### <活動の基本となる学習>

- ①学びを生かす喜び（講義1回）
  - ・ 自主企画講座を行っている行動人から、講座運営の実践例などを聞く

#### <実践的な学習・活動>

- ②満員御礼の講座プログラムを作ろう（演習・実習2回）
  - ・ 自主企画講座における受講者ニーズの把握の仕方や学習方法決定の仕方などを学ぶ
  - ・ 講座の企画立案をする・・・例えば「運動」「心のケア」「食」の3講座
- ③講座運営の方法を知ろう（演習・実習2回）
  - ・ 講座運営を具体化する・・・講座内容、講師交渉、会場確保、、日程調整、広報、役割分担、備品準備・・・等
- ④手に取りたくくなるようなチラシを作ろう（実習1回）
  - ・ イベントを手がけている行動人からチラシ作りのポイントを学ぶ
  - ・ 実際に作成する

⑤講座を開催する（実習 1 回）

- ・市町村や公民館等のイベントなどで、実際に講座を行う

<評価>

⑥学習の総括・評価（演習 1 回）

- ・実践後の評価と反省を行い、改善策などを話し合う
- ・次の企画や実践の場を考える

<人材として活動>

- ・新たな自主企画講座や事業の実施
- ・既存グループに加入して地域活性化に向けた活動
- ・新グループを立ち上げて地域活性化に向けた活動

大人の学び応援塾（全 8 回）

<活動の基本となる学習>

①地域活動に必要なこと（講義・演習 1 回）

- ・研究者・専門家を講師に招き講義を受け、地域活性化につながる学習や事業作りの演習をする

②活動事例から学ぶ（講話 1 回）

- ・他市町村の実践や経験者の講話を聞く

③街のいいところと残念なところ（講話・演習 1 回）

- ・地域素材や人材と地域課題解決とのマッチングを図るプログラム作りの演習をする

<実践的な学習・活動>

④企画・立案会議（実習 1 回）

- ・グループに分かれ実際に企画を練り決定する

例：エコ生活、ゴミの減量、介護のコツ、心と体の健康、子育てのツボ、賑わい創出など

⑤運営・事前準備会議（実習 2 回）

- ・企画運営に必要な事前準備を洗い出し、一つ一つ整える

⑥企画運営（実習 1 回）

- ・グループで企画した講座や事業を実際に運営する

<評価>

⑦学習の総括（演習 1 回）

- ・活動を評価し改善点などを明確にする
- ・次の企画や実践の場を考える

<人材として活動>

- ・新たな自主企画講座や事業の実施
- ・既存グループに加入して地域活性化に向けた活動
- ・新グループを立ち上げて地域活性化に向けた活動

## 2 行動人連携学習プログラムの作成と実施

### (1) 行動人連携学習プログラムとは

行動人連携学習プログラムとは、「行動人」の育成と現代的・社会的課題に対応する学習の推進を目指して、県生涯学習センターや市町村公民館等の社会教育施設と行動人がそれぞれの特色や強みを生かし協働・連携して開発する学習である。それぞれの役割の概要は図2の通りであるが、公民館や行動人が主体的に活動し事業展開できるように当センターが支援する形で進める。

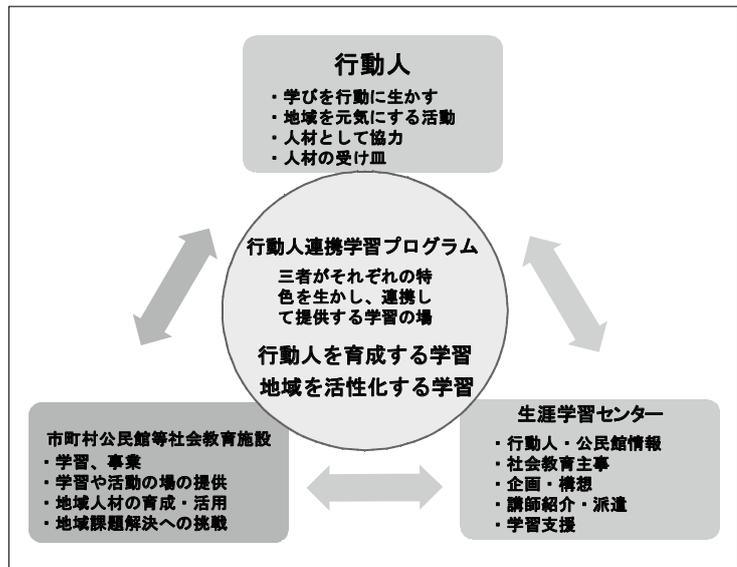


図2 行動人連携学習プログラムのイメージ

### (2) 連携対象について

社会教育施設・・・羽後町元西公民館

行動人・・・羽後町堀回地区コミュニティ

元西公民館は、兼任の町職員が中心となって運営する町立の公民館である。堀回地区コミュニティは、羽後町で40年に渡り地域活性化活動に取り組んでおり各方面で活動する「行動人」集団である。しかし人口の減少と高齢化が進み、コミュニティの維持が難しくなっていることや、近い将来、地域の学校が統廃合されると当該地域の衰退が懸念されることなどに危機感をもち、地域に活気を呼ぶ事業を模索中であった。折しも、第2期教育振興基本計画が閣議決定され、公民館を拠点とする地域コミュニティづくりが基本的方向性の一つに打ち出されたこともあり、本事業のモデルケースとなり得ると判断し、連携を依頼した。

### (3) 実践の概要

#### ①プログラムの作成にあたって

堀回地区コミュニティへ事業の趣旨を説明しプログラムの開発と共同実施を依頼したところ、既存の行事を見直す機会にしたということなので快諾を得た。

次に、羽後町教育委員会に事業の趣旨と堀回地区コミュニティの内諾を得ている旨を説明し協力を得た。

堀回地区コミュニティ、元西公民館、当センターの三者により打合せや検討を重ね図3のようなプログラムを作成した。作成開始が11月と遅かったため、今年度は評価までを行い、26年度事業まで継続していく計画とした。

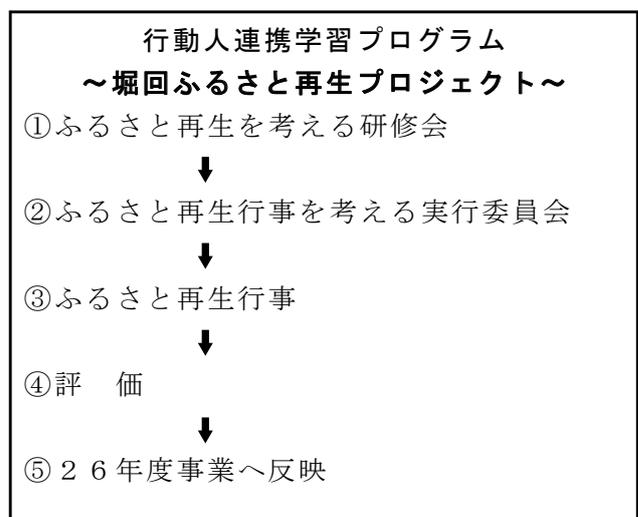


図3 プログラムの構成

## ②ふるさと再生を考える研修会

ふるさと再生を考える研修会開催のため、次のような作業分担をして準備を進めた。

<堀回地区コミュニティ>

- ・役員会
- ・参加者募集

<元西公民館>

- ・学習会広報
- ・会場設営

<県生涯学習センター>

- ・講師交渉、派遣手続き
- ・学習会構成打合せ
- ・高校生派遣交渉
- ・共催依頼手続き

研修会は、「昔から伝わる行事・文化の継承～今、私たちができること～」をテーマに、講師による地域での事例紹介、ワーキングによる継承されている要素の意見交換で構成した。事例紹介の中に、講師と地元高校郷土芸能部員との対談を入れ、文化を継承する若い世代の声を聞くこと、各種地元芸能文化の保存会や同好会代表者が参加してワーキングをすることが工夫した点である。



講師と高校生郷土芸能部員との対談



文化を継承する要素を話し合うワーキング

## ③ふるさと再生を考える実行委員会

ふるさと再生行事を考える実行委員会を開き、「雪中綱引き合戦」を開催することにした。雪中綱引きは、前年堀回地区コミュニティ発足40周年を記念して行った特設行事であるが、ふるさと再生を考える研修会を受け、地域の絆を強め、地域を元気にする行事としての意味付けをより明確にして継続することにした。

右は、雪中綱引き合戦最終プランである。「厳寒の朝、地域ぐるみの熱気と迫力で新しい年を引き寄せます」というキャッチコピーのもと、保育園児と老人クラブとの対戦、地元小中学校保護者会や高校ボランティア部、消防団や芸能保存会など綱引きを通して多様な世代が一同に会する機会をつくり、更に地元高校郷土芸能部による番楽と獅子舞のアトラクション、昼食交流会なども加え、楽しみながら交流できる内容を盛り込んだ。

実行委員会作成雪中綱引き合戦案内

#### ④ふるさと再生行事

平成26年1月19日(日)堀回地区コミュニティ雪中綱引き実行委員会主催、元西公民館及び県生涯学習センター後援という形で「雪中綱引き合戦」を実施した。寒波が厳しく雪が舞うあいにくの天候だったが、200人を超える地域の住民が参加して盛大に開催することができた。

地域内の全保育園児と小学生、その保護者、中学生有志と高校生ボランティア部などの若い世代の参加が目立った。堀回地区コミュニティが子どもを中心とする若い世代を取り込み地域社会で育てようとする意気込みに対し、園、地域の学校、保護者が趣旨に賛同し主体的に参加した。また、コミュニティを形成する各団体からも多数の成人層、中高年層の人々も参加し、綱引きを通して交流を深める機会になった。

アトラクションでは、高校郷土芸能部による仙道番楽と元城獅子舞保存会による神舞獅子舞が披露された。「若い世代から伝統芸能に触れる、すり込む、取り込む」というふるさと再生研修会の学びの成果を生かした取組といえる。高校生の伝統芸能を見事に継承している姿に大人は頼もしさと誇りを、子どもたちは先輩の姿にあこがれを感じているようであった。獅子舞では演舞に加え、参加した子どもたち一人ひとりの頭を獅子が噛み、学業成就と無病息災を祈願した。

昼食交流会では、地元産の米を使ったおにぎり、豚汁、漬け物などがふるまわれ、親睦が深められた。



熱戦が繰り広げられた雪中綱引き合戦



郷土芸能部 仙道番楽



元城獅子舞保存会 神舞獅子舞



昼食交流会



神妙に頭を垂れる子どもたち

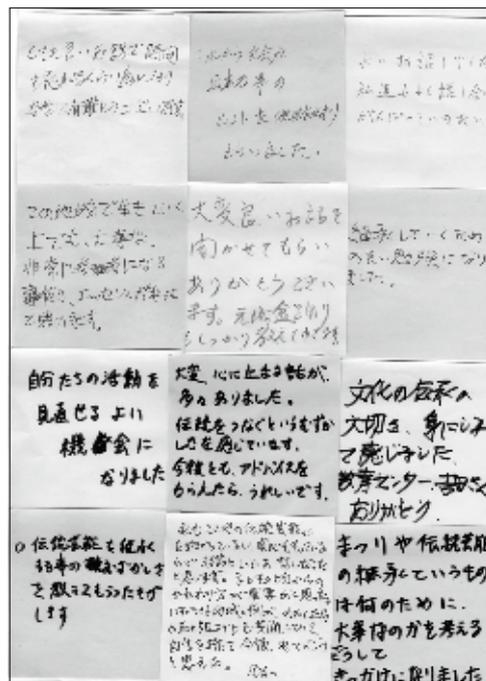
### ⑤評価

ふるさと再生を考える研修会の評価は、ワーキングの最後に感想を付箋紙に書く形で行った。「文化の継承を考えるきっかけとなった」「自分の活動に生かしたい」「今後も学習会を続けてほしい」というような内容が多く、好評だった。

ふるさと再生行事の評価及び総括は、日を改め実行委員会との意見交換で行った。子どもとその保護者が多く参加できたこと、高校生が積極的に地域行事に参画したこと、高齢者と子どもたちとの交流がもてたことなどは高評価だった。雪中綱引き合戦は地区コミュニティ主催の冬の行事として今後も継続することとした。

総括として、ふるさと再生を考える研修会で得た文化の継承に関わる学びを地域行事の工夫として生かすことができたこと、その学びはコミュニティを構成する各文化芸能保存会や同好会の活動にも生かしていく機会となったことを確認した。

「行動人連携プログラム～堀回ふるさと再生プロジェクト～」はコミュニティ活性化の一助になる実践であったと評価してよいと考える。



研修会の感想

## 3 行動人の情報収集・発信

### (1) 広報の状況

- ①ポスター・リーフレットの作成
- ②市町村への訪問及び広報～11/21開始、  
県内25市町村教育委員会、各公民館への配布
- ③県各機関、市民活動支援センター、JR、  
道の駅等への配布
- ④「教育あきた」、社会教育アドバイザー通信等  
広報誌での事業紹介



ポスター 84cm×59cm



三つ折りリーフレット（表面）



三つ折りリーフレット（裏面）

## (2) 行動人取材、ウェブサイトによる紹介

- ①行動人紹介累計 30,742人(1/31現在)
- ②取材記事68件(10/1~1/31)
- ③閲覧者の推移

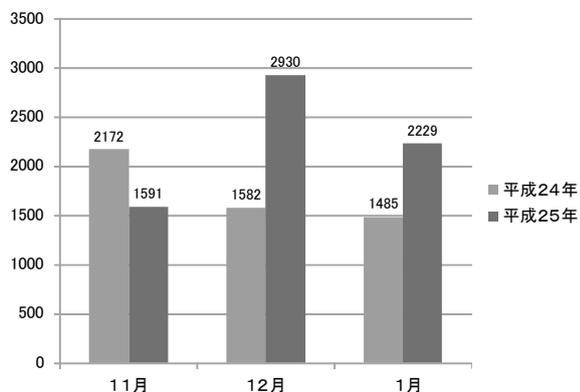


図4 ウェブサイトアクセス数前年比較

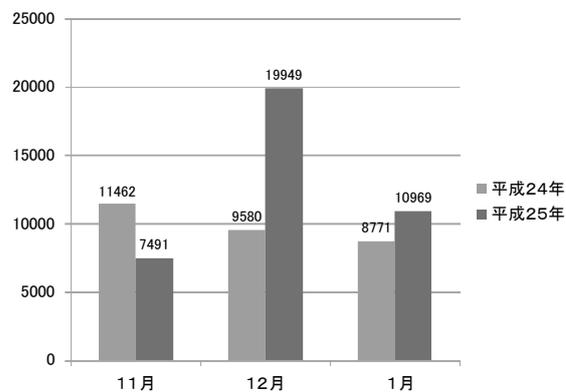


図5 ページビュー前年比較

広報を開始した直後の12月はアクセス数、ページビュー数ともに大幅に伸びた。1月も堅調に推移した。また、12月、1月の前年比較(図4、5)でも上回っており、広報活動の成果があったものと考えられる。

### ④行動人情報及び照会件数の増加

市町村からの行動人紹介事例や、行動人からの紹介事例が寄せられるようになった。また、ウェブサイトで紹介した行動人に関する問い合わせが来るようになった。さらに、講座の講師や活動の指導者として紹介依頼が来るようになってきた。

- ・市町村からの紹介事例 15件(1/31現在)
- ・行動人からの紹介事例 7件(1/31現在)
- ・講座や学習等での照会 9件(1/31現在)

## 4 事業の成果と今後の展望

### (1) 成果

- ①公民館事業に関する調査により、特色ある取組事例や参考になる取組事例を収集し、モデル学習プログラムに生かすことができた。市町村での貴重な実践例は、本報告書に資料として掲載し、全市町村及び公民館に配布することで活用が期待できる。
- ②公民館を利用するコミュニティの要望に沿ってプログラムの展開を構想したことにより、当該コミュニティの活性化につながる学習と事業が展開できた。
- ③公民館にとっては、利用する地域住民からの要望に沿う事業となり、協力・連携がしやすいという評価があった。地域活性化の参考事例として同町内の他の公民館事業への波及も期待できる。
- ④広報による成果が確認できる。ウェブサイトのアクセス数の増加に顕著に表れている。
- ⑤ウェブサイトで紹介した行動人に関する問い合わせが来るようになってきている。講座の講師や活動の指導者として紹介依頼が来るようになってきた。

### (2) 今後に向けて

- ①行動人連携学習プログラムの先行実践では、行動人である堀回地区コミュニティの主体性が強かった反面、公民館は主にサポートに回った事例となった。来年度は、公民館が主催し行動人を育てていくような事例にも取り組む必要がある。
- ②市町村訪問では、行動人連携学習プログラムに興味をもってもらえたが、まだ市町村や公民館から具体的な要望や問い合わせがない。来年度は、本県で国民文化祭が開催されるため新しい事業への挑戦を控えている感もあるが、粘り強い広報が必要である。
- ③今年度の広報は、市町村や公民館等の公共施設への訪問と依頼が中心となった。県内の行動人や地域活動をしているグループ、団体等への広報の幅を広げることで、さらに情報収集力・発信力が充実し、認知度の高揚につながると考えられる。